

## 全国学校保健大会

一時冬のように寒くなったと思えばここ数日は初夏のように暖かく、外出の際、着る服を選ぶのに一苦労です。さて10月27日土曜日は全国学校保健大会が神戸で開催され、前夜から新幹線で神戸に入りました。

当日は朝から学校保健に功績のあった医師や教師への表彰に立ち会い、その後のシンポジウムで、子供のトラウマインフォームドケア(トラウマを念頭に置いたケア)の話などを聞き、昼はお弁当を食べながら、文科省のお役人から学校保健政策の動向を聞き、さらに特別講演では「淡路島のサルから考える寛容性と協力社会」の話を聞いてきました。

絶対の権力を持つ日本のボス猿。彼が支配する専制政治の下で日本のサル社会は成り立っています。本来、融和や調和などないはずの世界の中であって唯一、何故か淡路島のサル社会だけ、お互いが寛容的で平和に暮らしていることが証明されたという。この寛容的なサル集団が他から滅ぼされることもなく脈々とその伝統を受け継いでいるという大変興味深いお話でした。今の戦争に明け暮れている人間社会、ロシアのような専制君主の下で暮らす国民に比べれば、日本のように頼りないが寛容性に富んだトップの下で暮らす国民の方がどれほど幸せかということに結論を持っていくのかと思ったのですが、演者はあくまで事実を淡々と述べて終わりました。

去年の今頃は花巻高校野球部の佐々木監督の「幾つになっても夢を持って明日を生きましよう」という力強い講演を聞いて心を熱くしたものでしたが、今年はなんとなくほのぼのとした講演でした。

それはともかく、毎日の外来はインフルエンザの患者さんや、逆にインフルエンザワクチンを打ちに来る人々で一杯です。諸先生方におかれましては寛容性を最大限発揮して、すべての人にやさしく接しながら診療を続けてください。

